



医療法人財団
きよせ旭が丘記念病院 広報誌
Kiyose Asahigaoka Memorial Hospital

Take Free

ご自由にお取りください

vol. 7
2024年1月

2023年1月創刊 / 隔月発行

きよあさ通信



南天 (ナンテン)

巻頭『新年のごあいさつ』 理事長 高木 由利 / 専務理事 箕輪 比呂志 / 院長 藤木 達雄
医局長 島田 祐輔 / 坂東 興 / 永井 睦

医師紹介 Doctor introduction 内科・糖尿病外来 渡邊 真樹子

外来診療体制表



— 新年のごあいさつ —



理事長・腎臓内科 高木 由利

あけましておめでとうございます。

きよせ旭が丘記念病院は、開院し 1 年 3 ヶ月になりました。私自身はコンパクトで働きやすく院内の空気も良いため、とても満足していますが、皆様はいかがでしょうか。

先日、ある患者様が“自分もきよせ旭が丘記念病院はとても気に入っているけれど、それ以上に先生が楽しそうに元気に仕事をされている姿を見ているので嬉しい”とお声をかけてくださいました。嬉しいような、ちょっと恥ずかしいような気分でした。コンパクトで動線がわかりやすいこともありますが、それ以上に院内の空気が非常にきれいなことが私の元気の源だと感じています。

コロナ感染がもっと落ち着いたら院内の様々な活動を広げていきたいと思いますが、なかなか望んでいる社会環境にはなりません。しかし、どんな状況にあっても夢を実現する心を持って明るく生きていく姿勢だけは崩したくないと考えています。

* * *

2023 年 12 月、台湾から糖尿病専門医の林教授と大手企業の周社長が来日されました。先生方の目的の 1 つは、日本ではなかなか広がらない医療、慢性腎不全の進行を抑制する唯一の方法である超低たんぱく食の試食と実態把握でした。

1 日目は順天堂大学で日本の糖尿病医療の第一人者である河盛教授が私達のために“スポーツロジー”のレクチャーをして下さいました。そして 2 日目は

林教授、周社長、そして糖尿病専門医の岩科先生が当院にいらして下さり、超低たんぱく食のランチを試食して頂きました。先生方はこの食事に強い関心を示され、是非台湾でこの食事を広めていきたいというお考えを表明されました。

超低たんぱく食は慢性腎不全の悪化を抑える唯一の方法ですが、日々の食事の食材を計量したりしながら 1 日 3 食自分で作ることの負担が大きいという理由でなかなか広まらないことを痛感しています。私はたまたまお料理が大好きで毎日様々なお料理をして、それをフリージングしておく習慣があるので、腎不全食を日々作ることに何の抵抗もないのですが、現実には厳しいものがあります。

今回の先生方の訪問から新たな提案がなされ、腎不全食が腎不全患者様の日常の食事として発展していくことを強く期待しています。



ご試食いただいた超低たんぱく食ランチ

新年明けましておめでとうございます。

富士山がくっきり見える穏やかな元日に、能登地震のニュースが飛び込んで来ました。寒さが本番を迎える季節の中、刻々と入ってくる被害状況を知り心が痛みます。また、自然災害とは異なりますが、ロシア対ウクライナの戦争も長引き、イスラエルとパレスチナの戦争もあります。

このような社会環境でスタートした年始、偶然に「多様性」という言葉に触れる機会がありました。多様性とは、「ある集団の中に異なる特徴・特性を持つ人がともに存在すること」であり、性別、人種、思想、学歴などを互いに認め合って、それを活かすことに

よって社会を良くして発展させていくという考え方です。多様性は進化していると言われてきましたが、戦争が続き、一般社会では攻撃的な言動、或いは立ち振る舞いをする人もあり、実際は分断され退化していると感じている人も多いはずです。より身近なところでは、地位争い、派閥争い、相続問題等もあります。

大切なことは、自分が多様性を受け入れる側ではなく、他者に受入れてもらう側でもあるということだと思います。無意識に自分は受け入れる側だと一方的に思っている人も多いはずです。私は、このことを心に留めて新たな年を過ごしたいと思います。

院長・心臓血管外科 藤木 達雄

新年あけましておめでとうございます。

年末からの寒波で急激に気温も下がり感染症の患者様も増加しています。ご愛読頂いてる皆様はお変わりなくお過ごしでしょうか。

今年は元日から天災、人災など波乱の多い幕開けとなりました。近い将来、私たちの住んでいるこの地域でも大きな災害が発生すると予測されております。行政はもとより各医療機関も準備を進めております。当院でも対策を進めており、一昨年末には老朽化した建物から新病院への移転を行いました。そして、2本の深井戸の保有・管理、災害支援物資の

備蓄等々、災害時にも医療継続ができるように対策を行っております。また、清瀬市医師会、清瀬市との合同訓練や講習会、東京都の広域災害訓練なども行っており、地域の皆様が安心して暮らせるように、災害に強い病院とするべく今年も改善や努力を続けてまいります。

最後に、前述したとおりインフルエンザや新型コロナウイルス感染症などが急増しております。風邪症状、発熱などの症状がございましたら、予め電話でのご連絡をお願いしております。

本年も宜しく願い申し上げます。

医局長・消化器内科 島田 祐輔

2024 年は明けて早々大きな事件が続いています。だからこそ心身の健康を保つことの重要性を実感しています。

消化器内科は今年も引き続き腹部・消化器の検査や治療に進進していきます。鎮静剤・鎮痛剤や経鼻内視鏡を用いた「苦しくない」内視鏡検査や、検査時の大腸ポリープ同時切除など、検査に不安のある方や多忙な方にも対応しております。さらに消化管止血術、異物摘出術（義歯・アニサキス等）といっ

た緊急処置も行える体制を整えてきました。また、昨年より経鼻内視鏡を用いた嚥下機能評価も開始し、特に嚥下機能が低下した方の経口摂取の可否を正確に判断できるようになりました。

消化管だけでなく肝・胆・膵領域も、健康診断での肝機能異常から重度肝硬変・膵炎まで積極的に対応しております。どうぞ今年もよろしくお願い申し上げます。

明けましておめでとうございます。昨年4月入職以来、初めてのお正月をきよせ旭が丘記念病院で迎えることになりました。振り帰ってみれば、あっという間の9ヶ月間でしたが、密度の濃い、充実した日々を過ごさせて頂いていることに感謝しています。

私は、これまで40年間、心臓外科医として、開業医や循環器内科の先生方からご紹介頂いた患者さんを手術させていただき、術後、患者さんが望まれる生活を送れるようにすることを生業として過ごしてきました。かかりつけ医として、長年、患者さんを診てこられた先生方と異なり、心臓外科医が、患者さんに出会うのは、通常手術の1～2ヶ月前、緊急手術の際には、手術の直前ということもあります。手術までの短い期間に如何にして、患者さんやご家族との信頼関係を構築できるか、これは、外科医にとって永遠のテーマとも言えます。

私の診察室に入って来られる患者さんたちは、「この外科医に自分の命を預けて大丈夫だろうか」という不安を少なからず持っておられます。そのような状況下で、患者さんの信頼を得るために、まず大切

なことは、紹介状に書かれていることを確認するだけでなく、患者さんのお話をじっくり聞くことだということを恩師達から学んできました。外科医として学んだ「患者さんの話を丁寧に聞くこと」の大切さは、きよせ旭ヶ丘記念病院に赴任し、全く新しいフィールドで診療する立場になっても、等しく大切なことだということを改めて痛感しています。私は、循環器疾患を専門と致しておりますので、動悸や胸痛、息切れ、足のむくみ、血圧が下がらないといった症状を訴えて来られる方を診ることがほとんどです。ご家庭や職場環境も含め、患者さんの訴えを丁寧に聞き、適切な検査を行っていくことで、動悸や胸痛は心臓血管病によるものなのか、心臓以外の原因を考えるべきなのかといった判断も的確につけることが出来ますし、複雑に絡み合った高血圧の原因を1つ1つ取り除くことも可能となります。

『Listen to The Patient』

年頭にあたり、この言葉の重みを今一度噛み締め、診療にあたっていきたいと考えています。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

脳神経外科 永井 睦

新しい年を迎えました。今年もよろしくお願いいたします。

昨年は人生の大きな変化がありました。その経験から得た今年の、いや今後の生涯を通しての目標は「精神的ストレスを極力減らしつつ、やりたいことの具体的目標をたて楽しく生きてゆく」ということです。

自分の人生目標についての詳しい話は置いておき少し脱線します。脳外科医と言うと、実はこの「精神的ストレス」は脳卒中予防としてとても重要であろうというお話です。脳卒中予防の王道はメジャーリスクである高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙習慣の是正です。精神的ストレスもリスクとして挙げられますが、研究対象になりにくいいためかマイナーリスクと認識されています。

ここで私の親戚の男性の実例を紹介します。若いときから酒を毎日欠かさず飲み、タバコは1日2～3箱吸い、晩年は糖尿病となりました。しかし彼は

大変おおかで、食べたいものを我慢せず食べ、やりたいことを全てする、本当に勝手気ままに生きていました。私が医師として何度注意しても酒、タバコをやめず食事制限もしませんでした。その彼は87歳で食事が減ってゆき動きが鈍くなり、特にあきらかな病気も見つからず、眠るように亡くなりました。老衰死です。本当に見事な幸せそうな死に際でした。彼が老衰死を得られたのは、糖尿業、喫煙などのメジャーリスクを凌駕するほどの精神的安定（ストレスの反対の意味）があったからだと思うのです。つまり、やりたいことをやっておおらかに笑って生きてきたからだと思うのです。ストレスのない生活を送るのは現代社会で絶対に無理ですが、小さいことを気にせず、おおらかに楽しい気分で生きてゆくことができれば、そうしている間も死に際も幸せになるのだと思います。

医師紹介 Doctor introduction

内科／糖尿病外来

渡邊 真樹子

Makiko Watanabe, M.D.

History

【出身】 山梨県都留市

【趣味】 旅行・おいしいものを食べること・
読書・映画鑑賞・娘の成長をみる

2012 年 東京女子医科大学 卒業
2012 年 東京女子医科大学 初期研修
2014 年 東京女子医科大学 糖尿病センター
2015 年 東京女子医科大学 東医療センター 糖尿病内分泌科
2017 年 東京山手メディカルセンター 糖尿病内分泌科
2018 年 代々木病院 内科
2021 年 健幸クリニック調布国領 内科
2023 年 12 月より当院勤務

■ 日本内科学会 内科認定医

■ 日本糖尿病学会 糖尿病専門医

Message

健康診断などで不安に思ったこと、疑問点など何でもご相談ください。

2023 年 12 月より当院で勤務させていただくことになりました、渡邊 真樹子（わたなべ まきこ）と申します。東京女子医科大学卒業後、同病院での初期研修を経て、女子医大糖尿病センター、東医療センター、山手メディカルセンター、クリニック勤務等で経験を積んで参りました。現在は他に、地元である山梨県での週 1 回の勤務と大学の関連で埼玉のがんセンター勤務をしております。

内科認定医、糖尿病専門医を取得しており、血糖関連をはじめ、高血圧、コレステロール、尿酸値など生活習慣病のことが得意分野となっております。健康診断などで不安に思ったこと、疑問点など何でもご相談ください。

糖尿病は血管の病気であり、最初のうちは症状が出ません。放置しておくくと徐々に血管病変が進行し、心筋梗塞や脳梗塞等を発症し生活の質の低下にも繋がります。糖尿病をはじめとした生活習慣病全体の管理をすることで、皆様の健康を守っていきたいと考えております。

また、こちらから治療を一方向的に提案するだけでなく、患者様と一緒にどのような治療があるか、他に良い方法はないのか、一緒に考えることを大切にしていきたいと思っております。常に患者様の立場で考えることを忘れず、知識は常にアップデートし診療に臨んでおります。どうぞよろしくお願いいたします。

渡邊医師 外来診療日

	月	火	水	木	金	土
午前	○		○	○		
午後	○		○	○		

※ 休診、外来日の変更等は当院ホームページをご確認ください。

外来診療体制表

午前受付 8:30 ~ 12:00 (診療開始 9:00) / 午後受付 13:00 ~ 16:30 (診療開始 13:30)

		月	火	水	木	金	土
内 科	午前	齋藤 圭子 渡邊 真樹子	齋藤 圭子	奥村 昌夫 勝矢 由紀子 渡邊 真樹子	島田 祐輔 齋藤 圭子 渡邊 真樹子	担当医	大西 将史 (第2,4) 担当医
	午後	渡邊 真樹子	担当医	渡邊 真樹子	渡邊 真樹子	島田 祐輔	村瀬 忠 (第3) 担当医
外 科	午前	藤木 達雄	藤木 達雄	担当医	担当医	藤木 達雄	藤木 達雄
	午後	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
呼吸器内科	午前	齋藤 圭子	齋藤 圭子	奥村 昌夫	齋藤 圭子		
	午後						
循環器科	午前	坂東 興	坂東 興	坂東 興	山崎 裕起		大西 将史 (第2,4)
	午後			坂東 興	坂東 興 山崎 裕起		坂東 興
消化器内科	午前			勝矢 由紀子	島田 祐輔		
	午後					島田 祐輔	
血液内科	午前						
	午後						村瀬 忠 (第3)
脳神経外科	午前	永井 睦	佐々木 重嘉	永井 睦	永井 睦	小林 啓一	永井 睦
	午後	永井 睦	佐々木 重嘉	永井 睦	永井 睦	小林 啓一	永井 睦
整形外科	午前				森友 信彦 (第4除)		石井 良介
	午後				森友 信彦 (第4除)		
心臓血管外科	午前	藤木 達雄 坂東 興	藤木 達雄 坂東 興	坂東 興	山崎 裕起	藤木 達雄	藤木 達雄
	午後			坂東 興	坂東 興 山崎 裕起		坂東 興
泌尿器科	午前	澤崎 晴武					高橋 さゆり
	午後						山中 優典 (第1,3)
皮膚科	午前		宮田 美穂 (第1,3)		宮田 美穂		
	午後						
内視鏡検査		午前	島田 祐輔	島田 祐輔	島田 祐輔	島田 祐輔	池田 宜昭 (第4以外) 島田 祐輔 (第4)
専門外来	糖尿病外来	午前	渡邊 真樹子		石井 主税 渡邊 真樹子	渡邊 真樹子	佐藤 潤一
		午後	渡邊 真樹子		渡邊 真樹子	渡邊 真樹子	佐藤 潤一
	乳腺外来	午前					中宮 紀子 (第2) 吉田 宗生 (第4)
	睡眠時無呼吸外来	午前	齋藤 圭子	齋藤 圭子		齋藤 圭子	
	禁煙外来	午後		齋藤 圭子			

※ 赤文字は女性医師です。

※ 急患は曜日・時間問わず常時受け付けております。

※ 予約がなくても受診することは可能ですが、予約の方が優先となりますので

お待ち頂くことがございます。また、救急患者等により予約時間が遅延することもございます。

※ 日曜日・祝日・年末年始(12月30日～1月3日)は休日救急診療体制となります。

※ 休診情報などの詳細はお電話または当院ホームページにてご確認ください。

ご予約・お問合せ **042-491-2121**
(9:00 ~ 17:00)



編集・発行 医療法人財団 きよせ旭が丘記念病院 広報委員会

〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘 1-619-15 TEL 042-491-2121 (代表)
<https://kiyoasa-hosp.or.jp>

